

取組7

交通基盤の充実

取組の評価

3.6

順調

< 取組7の基本方針 >

- 1 JR袋井駅舎及び周辺地区の整備
- 2 計画的な道路補修による長寿命化
- 3 幹線道路及び生活道路の計画的な整備
- 4 利便性の高い公共交通の実現

【取組の目的】

安全で円滑な道路網の整備と公共交通の確保を図り、だれもが快適に移動できる利便性の高い交通ネットワークを構築します。

『 取 組 』 に 係 る 社 会 の 動 向 と 本 市 の 現 状

1 社会の動向

- ◎ 平成24年4月に新東名高速道路が開通し、車両通行における移動時間の短縮や定時性の向上、周辺観光地や商業地等を中心とした地域社会経済の活性化が図られている。また、大規模災害時には救援・復旧活動用輸送路として大きな役割を果たすことが求められている。
- ◎ 平成24年12月に中央自動車道の笹子トンネル（山梨県）で天井板崩落事故が発生したこと等を受け、国土交通省は、国や自治体のトンネルや橋梁などの道路構造物を「計画的に点検、診断、修繕し、結果を今後の点検に生かす流れ」を連続的に実施する「メンテナンスサイクル」の考え方を取り入れ、市町村道を含む全てのトンネルや舗装などの構造物がこのサイクルに沿って維持管理を行うよう制度化していく方針である。
- ◎ 国土交通省は、車移動を基本とする地方都市の分散型構造を、少子高齢化に対応した公共交通、徒歩、自転車で日常の用事を済ませられる、人や環境に優しい集約型構造のまちに転換を図ることを目的として、郊外に分散した医療、福祉、生涯学習など暮らしをサポートする機能を中心市街地に集約し、環境負荷の少ない都市をめざす「エコ・コンパクトシティー」を推進しており、全国的に公共交通の利用促進が求められている。

2 本市の現状（主な取組）

- ◎ 袋井駅南方面からのアクセス性の向上や、高齢者や障がいのある人など誰もが使いやすい施設となるよう、平成26年秋の供用開始を目指して、袋井駅南北自由通路新設及び橋上駅舎化事業、南口駅前線整備事業等を推進している。
- ◎ 道路の安全を確保するため、1・2級市道や幹線道路を計画的に舗装補修するとともに、今後増大が見込まれる橋梁の修繕コストの縮減を図り、適正に管理していくため、「袋井市橋梁長寿命化修繕計画」を平成25年3月に策定した。また、国の緊急経済対策事業（国庫補助金）を活用して、道路舗装修繕や橋梁長寿命化修繕の推進を図っている。
- ◎ 新東名の開通や新病院の開院等を踏まえて、「袋井市道路整備10箇年計画（後期計画）」を平成24年7月に策定した。また、都市計画道路をはじめとした安全で円滑な道路網を構築するため、都市計画道路再検証指針の作成や道路ネットワークの検証（交通量推計）を行い、都市計画道路の存廃等に関する方針案をまとめていく。
- ◎ 新病院の開院にあわせて、高齢者等が円滑に通院できるよう、路線バスや自主運行バスの新規路線を構築し、市内路線の自主運行バスのダイヤも新病院線にスムーズに接続できるように改正を行った。また、地域におけるきめ細やかな交通を確保するため、浅羽東地区に加え、三川地区においても地域協働運行バスの運行を開始した。

『 取 組 指 標 』 の 分 析 と 評 価 結 果

1 取組指標の評価

【※ 実績値は、各年度末における最新数値】

評価結果の平均値（A）

3.3

<評価基準>

4：達成率 ≥ 100％・前年比伸び率 ≥ 0％

3：達成率 ≥ 100％・前年比伸び率 < 0％

2：達成率 < 100％・前年比伸び率 ≥ 0％

1：達成率 < 100％・前年比伸び率 < 0％

番 号	指 標 名	項 目	現状値(計画)	H22	H23	H24	H25	H26	H27
1	要舗装修繕箇所の整備率【％】	目 標 値	－	43.3	43.3	52.9	62.5	72.1	88.0
		実 績 値	21.0	33.0	36.0	41.1			
		達成率 伸び率	－ －	76.2 57.1	83.1 9.0	77.6 14.1			
		評 価	－	2	2	2			
2	「事業化準備制度」の事業実施数(幹線道路・生活道路)【事業】	目 標 値	－	24	24	27	29	31	32
		実 績 値	14	19	24	33			
		達成率 伸び率	－ －	79.1 35.7	100.0 26.3	122.2 37.5			
		評 価	－	2	4	4			
3	道路整備10箇年計画道路の整備率【％】	目 標 値	－	50.2	50.2	50.5	50.7	51.2	51.9
		実 績 値	49.5	50.0	50.3	50.5			
		達成率 伸び率	－ －	99.6 1.0	100.1 0.5	100.0 0.3			
		評 価	－	2	4	4			
4		目 標 値							
		実 績 値							
		達成率 伸び率							
		評 価							

【指標に影響を与えた主な要因】

- ◎ “要舗装修繕箇所整備率”は軟弱地盤対策等により不測の時間を要したため目標未達成となったが、その他の指標は計画的に事業推進し、目標を達成した。

2 指標で表すことが困難な成果

- ◎ 袋井駅南北自由通路新設及び橋上駅舎化事業について、自由通路等の愛称募集や市民アイデアの反映により、市民の愛着や誇りが芽生え、早期の完成が期待されている。
- ◎ 道路整備は多額の費用と時間を要するが、安全で円滑な移動や沿線の都市的土地利用が促進され、地域の活性化や市税（固定資産税）収入の増進が見込まれる。
- ◎ 公共交通空白地帯での自主運行バスの運行や生活バス路線の確保対策により、交通弱者など誰もが移動できる交通ネットワークが構築されている。

政策3

取組7

『 主 要 事 業 』 に 係 る 事 業 評 価 表 の 評 価 結 果

1 主要事業の評価

番号	主 要 事 業 名	事業評価表の評価結果 H24 事業費 【千円】	事業評価表の評価結果		
			有 効 性	効 率 性	廃 止 の 影 響
			4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	（都）袋井駅南北自由通路新設事業	362,799	4	3	4
2	（都）南口駅前線改築事業	67,870	3	3	4
3	（都）西通新池線改築事業（第三工区）	79,469	3	3	4
4	道路橋梁維持管理事業	201,263	3	3	3
5	道路舗装補修事業	36,419	3	3	3
6	橋梁の長寿命化修繕事業	5,075	3	3	3
7	緊急経済対策事業（道路舗装修繕・橋梁長寿命化修繕等）	301,000	3	3	3
8	広域幹線道路整備連携事業	119	3	3	3
9	都市計画道路整備関連事業	119	3	3	4
10	（都）袋井駅森線改築事業	4,535	4	4	4
11	（都）上久能山科上線改築事業（第二工区）	17,000	3	3	3
12	（都）山梨中央通り線改築事業	7,000	4	4	4
13	（都）諸井山の手線改築事業	1,000	4	3	3
14	市道東同笠油山線改築事業（第一工区）	115,013	4	3	4
15	市道湊中新田線改築事業	116,145	4	3	4
16	市道湊川井線（諸井橋）改築事業	185,103	4	3	4
17	市道太郎兵衛新道国本線改築事業（冠水対策）	57,560	4	3	4
18	市道大谷幕ヶ谷線改築事業	1,890	4	2	4
19	市道小野田田原線改築事業	108,000	4	3	3
20	3級市道整備事業	43,163	4	3	4
21	「クリーンセンター等関連」3級市道整備事業	47,005	4	3	4
22	「サンサーラいごおか関連」3級市道整備事業	23,894	3	3	4
23	生活バス路線確保対策事業	34,842	3	3	4
24	天竜浜名湖鉄道運営支援事業	839	2	3	4
25	自主運行バス運行事業	35,680	2	3	4
評価結果の平均値（B）		3.4	3.4	3.0	3.7

『 取 組 』 の 有 効 性 ・ 必 要 性 ・ 緊 急 性 の 評 価 結 果

1 取組の有効性等の評価 評価結果の平均値（C） 4.0

番 号	評 価 項 目	H22	H23	H24	H25	H26	H27	コ メ ン ト 欄
1	有 効 性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	4	4	4				◎ 袋井駅自由通路・橋上駅舎事業をはじめとした駅周辺整備事業は、駅へのアクセス性の向上やバリアフリー化を図るだけでなく、駅南側の都市的土地利用を促進させるなど、中心核の拠点性を高め、中東遠の中軸都市にふさわしい魅力ある都心地域の形成に資するものである。 ◎ 橋梁長寿命化修繕計画は、事後保全から予防保全型管理に転換することで、安全性の向上、施設の長寿命化や維持管理・更新費用の縮減を図ることができ、非常に効率的かつ効果的である。
2	必 要 性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	4	4				◎ 平成24年4月の新東名開通や平成25年5月の新病院開院により、本市の道路や公共交通をとりまく環境が変化しており、人・物・情報の新しい流れに対応した交通ネットワークの構築が求められている。 ◎ 本市は全域に市街地や集落が広がっており、市民生活を支える道路の維持管理は不可欠なものである。今後、橋梁など道路施設の老朽化や更新時期の集中が見込まれていることから、橋梁長寿命化修繕計画等により、限られた財源で効率的に維持管理していくことが必要である。
3	緊 急 性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	2	4				◎ 袋井駅南北自由通路新設及び橋上駅舎化事業や南口駅前広場などのアクセス道路整備事業について、自由通路と橋上駅舎の平成26年秋の供用開始に向けて、確実に推進していく必要がある。 ◎ 市営墓地に関連する道路、自動車・自転車（学生）等の交通量が多く安全性の低い道路、密集市街地など防災・安全面の改善が必要になる地域の道路は、早急に整備していかなければならない。また、道路整備10箇年計画や橋梁長寿命化修繕計画に基づき、事業化準備制度等を活用し、限られた予算の中で、計画的に道路の整備や維持管理をしていくことが必要不可欠である。

『 取 組 』 の 総 合 評 価 と 今 後 の 展 開 方 向

1 総合評価 <評価基準> 4 ～ 3.6：順調 3.5 ～ 3：概ね順調 2.9 ～ 2：一部に改善を要する 1.9 ～ 1：全体的に改善を要する

取 組 の 評 価			コ メ ン ト 欄
3.6	順調		◎ 袋井駅南北自由通路新設及び橋上駅舎化事業について、市民に親しまれる施設となるよう市民アイデアの具現化や工事における駅利用者等の安全確保の徹底を図っている。また、南口駅前線と西通新池線（第三工区）について、早期の事業完了に向けて、沿道整備街路事業の導入を図り、道路改築事業の推進に取り組んでいる。 ◎ 道路整備10箇年計画（後期計画）や橋梁長寿命化修繕計画により、中長期的な方針を示し計画的な事業の推進を図るとともに、多額の費用を要する道路整備や修繕について、国の補助金等（緊急経済対策事業等）を積極的に活用して、市財政負担の縮減を図っている。また、事業化準備制度により、予め住民等の合意を得ることで、事業着手後の円滑な事業推進を図っている。 ◎ 平成25年5月の中東遠総合医療センターの開院にあわせた路線バスや自主運行バスの新規路線の構築や、三川地区の地域協働運行バスの導入などにより、交通弱者の移動手段の確保や公共交通空白地帯の解消に向けて取り組んでいる。 ◎ 新東名開通や新病院開院など本市の状況を見据えながら、引き続き最適な道路網や公共交通ネットワークの構築を検討していく必要がある。
各評価結果の平均値			
取組指標の 評価結果（A）	主要事業の 評価結果（B）	有効性等の 評価結果（C）	
3.3	3.4	4.0	

2 取組の基本方針別 今後の展開方向 <展開方向> 拡充（順調） 拡充（改善必要） 継続推進 縮小

番 号	取 組 の 基 本 方 針	H22	H23	H24	H25	H26	H27	今 後 の 展 開 方 向
1	J R 袋井駅舎及び周辺地区の整備	継続推進	継続推進	拡充				袋井駅南北自由通路新設及び橋上駅舎化事業は、駅利用者や周辺住民等の安全確保を徹底するとともに、市民に親しまれる施設となるよう市民アイデアの具現化を図っていく。また、南口駅前広場などアクセス道路整備事業は、自由通路や橋上駅舎とあわせて、平成26年秋の供用開始に向けて推進していく。 橋梁の長寿命化修繕について、対象施設が多く費用も多額になることから、平成24年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画を基に、より効率的かつ効果的に事業推進していくことが求められる。 都市計画道路の再検証等により道路ネットワークの最適化を図るとともに、幹線道路については、道路整備10箇年計画により着実に事業推進していく。また、生活道路については、事業化準備制度を活用して住民等の合意形成を十分に図ったうえで道路計画を策定していく。 中東遠総合医療センター線などの自主運行バスについて、利用状況を確認し、必要に応じて運行のあり方を検討し、市全体として誰もが使いやすく利便性の高い公共交通の整備を図っていく。
2	計画的な道路補修による長寿命化	継続推進	継続推進	拡充				
3	幹線道路及び生活道路の計画的な整備	拡充	継続推進	継続推進				
4	利便性の高い公共交通の実現	継続推進	継続推進	継続推進				
5								
6								

【その他留意事項】
県は新東名開通を契機に「内陸フロンティアを拓く取組の全体構想」を策定し、本市は県の総合特区申請において、市北部地域を「セントラルキッチンの形成」、市南部地域を「企業移転・農業再生モデルの構築」として位置づけ、内陸部と沿岸部の活性化を図る取り組みに着手している。また、本市は「新東名利活用シンポジウム」を開催するなど、新たな土地利用の方向性の検討も始めている。
本市における「自転車を活かしたまちづくり」について、交通手段、環境負荷、健康増進や観光・産業振興への波及効果などの観点から研究している（サイクルタウン研究）。